

小美玉市の歴史を知ろう 54

伝えられた古瀬戸 香炉 — 城之内館跡 —

市内での発掘調査

遺跡内で住宅建設などの工事をする場合、地面の下に遺構の有無を確認するため、試掘調査をする必要があります。そして、その工事で遺構が壊される場合のみ、記録保存のため発掘調査を行います。今回はその一例を紹介します。

の大井戸地区には、大きな入り江が形成され、「大枝の津」がありました。この地は、石岡に本拠がある大塚氏の支配する水上交通の拠点。城之内館は、府中城の出城として水辺の守りを担いましたが、天正18年（1590年）、佐竹氏との戦いで落城してしまいます。

城之内館跡

城館と言え、壮大な天守閣や山城などをイメージするかもしれませんが、湖や川の近くの城館もあります。園部川河口付近の川中子地区、標高2mほどの低地に築城された



城之内館跡の遠景
城之内館跡もその一つで、堀や土塁で囲まれた方形を呈しています。
14世紀、霞ヶ浦の水上交通は盛んに行われ、川中子地区の南側



堀跡の全景

令和3年の発掘調査

城之内館跡の発掘調査は、地面を1m程度掘ると水が湧き出る低地で実施されました。幅約2mの堀跡を80cmほど掘り進めると、作業員が「堀の底に丸いものがあるよ」と声を上げました。何かと思いましたが見ると、小さな足が付いた底と緑色の釉が目に入りました。記録をしてから取り上げると、なんと完全な形の古瀬戸の香炉だったのです。



古瀬戸香炉の出土状況



古瀬戸灰釉筒形香炉

古瀬戸香炉

土の中に眠っていた遺物は、古瀬戸の「灰釉筒形香炉」だと分かりました。原材料の粘土はクリーム色ですが、水気が多い場所にあったせいか、還元して色が黒色に変わっていました。表面には灰から作った釉薬が塗られ、緑色の釉が流れています。完形であると思った香炉ですが、実は漆で継いで修復されていました。形状から15世紀中頃に生産されたと思われます。

伝世品

美術品的な価値があるものは、大切に保管され、人から人へと受け継がれます。茶器や香炉などの陶磁器もその対象になっています。

中世には上級武士層にまで香をたしなむ風習が広がりました。今回出土した香炉も城之内館の主が手に入れた、大切にしていた一品である可能性があります。修復後に入手したのか、割れた後に自身で修復したのかは分かりません。出土状況から、堀が使わ

れなくなった段階で廃棄されたものと思われます。

城之内館の落城は今から約430年前で、香炉が生産されたのは約570年前。仮に落城後に香炉が廃棄されたとすると、約140年間伝世していることになります。また、祭祀などで使われるカワラケ（土師質土器小皿）が周辺で出土していることから、何らかの祭祀行為が行われたのかもしれない。

【語句解説】

釉…素焼きの陶磁器の表面に掛けて装飾と水分の吸収を防ぐ、ガラス質の部分。
古瀬戸…平安時代末から室町時代中期まで、現在の愛知県瀬戸市周辺で生産された陶器。

香炉…香料を加熱し、香気成分を発散させるための器具。素材は陶磁器・金属・石材。

玉里史料館 ワンケース展示
伝えられた古瀬戸 香炉
～城之内館跡～

今回紹介した資料を初公開します。

期間 1月8日(土)～2月27日(日)

場所 玉里史料館

(生涯学習センターコスモス内)

休館日 月曜日、1月11日(火)、
2月11日(金)、23日(水)

※新型コロナウイルス感染対策防止のため、期間や内容が変更となる場合があります。